

活動分野	森に親しむ講座		
タイトル	21世紀の森と広場 春の芽吹きを訪ねる		
実施日時	平成29年4月6日(木) 10時~14時		
実施場所	松戸市 21世紀の森と広場		
受講者	43名	FIC会員他スタッフ	16名

活動の内容

春の樹木の動きを感じる

湿地のヤナギ

松戸市の21世紀の森と広場は50haの市営公園です。北総台地に広がる照葉樹林と雑木林、樹林からの湧水による湿地が広がり、ゾーニングされた園内は里山の風景も楽しめます。

この時期は樹木がそれぞれの色で芽吹き、日一日と状態が変化しています。冬にじっとしていた木々が一斉に動き出し、1週間前に花盛りだった赤いカツラの花は散り、新緑の黄緑に早変わりし、目覚めの早いコブシとハンノキにはもう小さな実がついていました。そうかと思うとトチノキの冬芽はまだ固く、それぞれの時間を感じました。普段あまり注目されないアオキも雄花と雌花の違いをしっかりと観察できました。

湿地を生かしたこの公園にある7種類のヤナギにスポットをあてました。ヤナギは川の護岸、薬の原料と古くから人に活用され、明治時代あたりまでは身近に柳行李やハブラシに利用されてきました。現在は生育の速さから木質バイオマスエネルギーとして研究されています。今日はルーペを使いしっかり雌雄異株のヤナギの花を観察しました。園内に2株しかないバッコヤナギの銀色の雄花が葯の赤、花粉の黄色と変化していくのが見られました。

また園内には8種の桜があります。ソメイヨシノ、オオシマザクラは満開でその色の違いがよくわかりました。この公園にある樹木は千葉県でよくみられる樹木です。身近な春の樹木をゆっくり観察しました。

